



The 3rd WORLD CONGRESS on PROBATION JAPAN 2017

人は変わる。

世界保護観察会議

—社会内処遇の発展とコミュニティの役割—

平成 29 年 9 月 12 日-14 日

東京

品川プリンスホテル



主 催

- ◇ 法務省
- ◇ 国連アジア極東犯罪防止研修所 (UNAFEI)
- ◇ 更生保護法人日本更生保護協会
- ◇ 更生保護法人全国保護司連盟
- ◇ 更生保護法人全国更生保護法人連盟
- ◇ 日本更生保護学会

後 援

(国内) : 東京都, 一般社団法人日本経済団体連合会, 公益財団法人アジア刑政財団 (ACPF), 更生保護法人更生保護事業振興財団, 更生保護法人立川更生保護財団, 特定非営利活動法人日本BBS連盟, 日本更生保護女性連盟, 認定特定非営利活動法人全国就労支援事業者機構, 保護司アジア研協力会 (50音順)

(国外) : アメリカ保護観察協会 (APPA), 欧州保護観察連合 (CEP), 国際社会内処遇協会 (ICCA), 国際矯正刑事施設協会 (ICPA) (アルファベット順)



世界保護観察会議は、犯罪者の社会内処遇の発展とこの分野における国際ネットワークの拡大を目的として、世界各国における実務・学術上の知見を共有するための最大規模の国際会議です。

世界各国で社会内処遇の実務、政策や研究などに携わっておられる皆様方の、本会議への参加を心からお待ちしています。

参加登録

公式ウェブサイトにて、会議への参加登録を受付中です。

会費は1人当たり4万円（平成29年7月31日までにお支払いいただける場合には3万円、平成29年8月31日までにお支払いいただける場合には3万5千円）です。

※ 会費には、9/12の夕食（ウェルカムレセプション）、9/13の昼食及び夕食（レセプション）、9/14の昼食の費用が含まれています。

公式ウェブサイト

第3回世界保護観察会議の公式ウェブサイト

<http://www.moj.go.jp/HOGO/WCP3/>

会場

品川プリンスホテル

〒108-8611 東京都港区高輪 4-10-30

<http://www.princehotels.com/en/shinagawa>

交通手段・宿泊先

会場までの交通手段及び宿泊先については、各自の手配をお願いします。

品川プリンスホテルの宿泊は、上記公式ウェブサイトでも予約できます。



テーマ

“社会内処遇の発展とコミュニティの役割”

社会内処遇は、各国独自の文化や社会（例えば、政策、経済情勢、刑事司法システム等）の違いを反映し、多様な発展を遂げてきています。本会議は、これら各国の社会内処遇の実績を踏まえ、実務上の経験や学術上の知見を共有することを通じ、社会内処遇のさらなる発展に貢献することを目的とするものです。

特に、犯罪者や非行少年の再犯・再非行を防止し、その改善更生を促進するためには、コミュニティの積極的な参画が重要であることについて、各参加者の理解が深まることを期待し、本会議のメインテーマを「社会内処遇の発展とコミュニティの役割」としました。

日程

9月12日(火)	8:00 ~ 17:00	スタディツアー（海外からの参加者のみ）
	18:00 ~ 20:00	ウェルカムレセプション
9月13日(水)	9:25 ~ 9:50	オープニングセレモニー
	9:55 ~ 11:45	基調講演①, 基調講演②
	12:45 ~ 17:00	ワークショップ, 基調講演③
	18:00 ~ 20:00	レセプション
9月14日(木)	9:15 ~ 12:00	特別講演, シンポジウム
	13:05 ~ 16:30	ワークショップ, 基調講演④
	16:30 ~ 17:00	クロージングセレモニー

※ 9月12日(火) 15:00~17:30に、アジア保護司会議が併せて開催されます。

※ 9月13日(水)開催予定のレセプション会場は、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」となります。



基調講演・特別講演

【 基調講演 】

- ① フランク・ポポリーノ氏（T³アソシエーツシニアパートナー/国際矯正刑事施設協会理事・カナダ）
「保護観察の実践における発展と課題：効果的かつ持続的な保護観察制度の確立に向けた方法はあるのか」
- ② ピーター・レイナー氏（スワンジー大学教授・イギリス）
「効果的な保護観察：保護観察研究の過去、現在、未来」
- ③ トッド・クリア氏（ラトガース大学教授・アメリカ）
「日々の生き生きとした実践における保護観察の価値を思い描く」
- ④ 赤根智子氏（国際司法協力担当大使・日本）
「保護観察の未来：アジアにおける経験とコミュニティの役割」

【 特別講演 】

- 宮田亮平氏（文化庁長官・日本）
「ときめきの時—芸術と更生保護の心」

シンポジウムの概要

「社会内処遇における市民参加」をテーマとして全体シンポジウムを行います。日本、タイ、オランダ、オーストラリア、ケニアの実務家等から、各国における社会内処遇における市民参加の取組事例が報告されます。

ワークショップにおける発表の概要

ワークショップにおいては、世界17か国の実務家や研究者が参集し、社会内処遇の政策と実務、犯罪者や非行少年の効果的な処遇及びコミュニティの役割という3つの分野について、12のセッションを実施し、44の発表と討議を行います。

社会内処遇の政策と実務というテーマにおいては、各国における特徴ある社会内処遇の紹介、国際比較、国際協力の在り方、保護観察官の育成、更生保護施設の役割等について、多角的な討論がなされます。

犯罪者や非行少年の効果的な処遇に関しては、効果的な処遇技法やアセスメント、薬物、暴力、性犯罪などの特定のニーズへの対応について、エビデンスを基盤とした実践や効果検証について議論されます。

コミュニティの役割については、犯罪者や非行少年の社会への再統合、保護司や地域のボランティア、就労等に関する協力者の役割や意義について、幅広く論じられます。

いずれも最先端の世界の社会内処遇の具体的内容に直接触れるよい機会となるでしょう。